

花のまちづくり 優秀事例発表会 2019



公益財団法人 日本花の会

〒107-8414 東京都港区赤坂 2-3-6 コマツビル

TEL 03-3584-6531 FAX 03-3584-7695

<http://www.hananokai.or.jp/>

2019 年 10 月 23 日 (水)

日比谷図書文化館 コンベンションホール

主催：公益財団法人日本花の会

表紙の写真

①	②	③
④	⑤	

①ガザニア
②サルビア・スプレデンス
③テッポウユリ
④ハイドランジア・アナベル
⑤ジニア

プログラム	
12:00	開場・受付開始
12:50	開会・開会あいさつ
13:00	第 29 回 全国花のまちづくりコンクール審査結果報告
13:15	花のまちづくり優秀事例発表
	農林水産大臣賞 【団体部門】 富士市花の会（静岡県富士市） 【団体部門】 NPO 法人渋川広域ものづくり協議会（群馬県渋川市） 国土交通大臣賞 【団体部門】 アドプト・ロード・万博北（大阪府茨木市） 【団体部門】 サンセトー宮花仲間（兵庫県淡路市） 文部科学大臣賞 【団体部門】 長岡市立桂小学校（新潟県長岡市）
15:45	休 憩
16:00	講 演
	花のまちづくりスキルアップ 「魅力ある花壇づくり」 講師 奥 峰子氏 公益財団法人園芸文化協会常務理事 花のまちづくりコンクール審査委員
17:10	コンクール審査講評 審査委員長 輿水 肇
17:20	2020 年全国花のまちづくり浜松大会のご案内
17:30	閉 会

第29 回 全国花のまちづくりコンクール 審査結果報告

応募者数

応募総数	1,543
市町村部門…	3
団体部門…	1,109
個人部門…	58
企業部門…	373

受賞者一覧

花のまちづくり大賞 農林水産大臣賞

団体部門	特定非営利活動法人渋川広域ものづくり協議会（群馬県渋川市）
団体部門	富士市花の会（静岡県富士市）

花のまちづくり大賞 国土交通大臣賞

団体部門	アドプト・ロード・万博北（大阪府茨木市）
団体部門	サンセット一宮花仲間（兵庫県淡路市）

花のまちづくり大賞 文部科学大臣賞

団体部門	長岡市立桂小学校（新潟県長岡市）
------	------------------

花のまちづくり優秀賞 花のまちづくりコンクール 推進協議会長賞

市町村部門	小松市（石川県小松市）
団体部門	五霞町立五霞中学校（茨城県五霞町）
団体部門	とちお花企画（新潟県長岡市）
団体部門	富山市立船峯小学校（富山県富山市）
団体部門	私たちの庭の会（愛知県一宮市）
団体部門	花の仲間たち（福岡県福岡市）
個人部門	滝澤 善隆・市子（長野県松本市）
個人部門	高島 孝子・直宏・千鶴（香川県三豊市）
企業部門	パナソニック洲本園芸部（兵庫県洲本市）

花のまちづくり奨励賞 花のまちづくりコンクール 審査委員会賞

市町村部門	「善通寺五岳の里」市民集いの丘公園（香川県善通寺市）
団体部門	厚木市学生ボランティア団体「ぼくら」（神奈川県厚木市）
団体部門	ルネ東林間自治会「サークルふれあいガーデン」（神奈川県相模原市）
団体部門	射水市立塚原小学校（富山県射水市）
団体部門	長野県須坂創成高等学校（長野県須坂市）
団体部門	エコ・ガーデンと愉快的仲間たち（福岡県福岡市）
団体部門	島原市立第一中学校（長崎県島原市）
個人部門	松本 茂治（群馬県館林市）
個人部門	益田 満智子（静岡県吉田町）
企業部門	株式会社ホテルサンバレー（静岡県伊豆の国市）
企業部門	株式会社ベースワン（滋賀県彦根市）

花のまちづくり入選

団体部門	
貝ヶ森ガーデンサポーター（宮城県仙台市）	会津若松市立川南小学校（福島県会津若松市）
喜多方市立第一小学校（福島県喜多方市）	鳥栖新田花いっぱい愛好会（茨城県鉾田市）
東野寺地区資源保全活動組織（茨城県かすみがうら市）	門部鹿島坏環境保全会（茨城県那珂市）
那珂市立菅谷小学校（茨城県那珂市）	川場美しいマチ研究会（埼玉県新座市）
習志野台団地自治会 花愛好会（千葉県船橋市）	おやじ&おふくろの会（千葉県我孫子市）
片上まちづくり協議会 生活環境部会（福井県鯖江市）	中郷地区婦人会（福井県敦賀市）
掛川市立千浜小学校（静岡県掛川市）	磐田市花の会 磐田支部花の会（静岡県磐田市）
長尾川の土手に花を植える会（静岡県静岡市）	マークス・フラワーチーム（静岡県静岡市）
関田東高砂会（愛知県春日井市）	春日井市立岩成台中学校（愛知県春日井市）
花いち会（愛知県半田市）	有協真古酌薬師水再生委員会（愛知県半田市）
いきいき刈谷友の会 ガーデニング部会（愛知県刈谷市）	刈谷市小垣江地区自治会（愛知県刈谷市）
がまごおり花フル会（愛知県蒲郡市）	綾部バラ会（京都府綾部市）
ガーデニング倶楽部（兵庫県神戸市）	尼崎市立南武庫之荘中学校（兵庫県尼崎市）
伊丹市 フラワーリーダー 8 期生（兵庫県伊丹市）	網干公園みどりの会（兵庫県姫路市）
鵜野中町花家族の会（兵庫県加西市）	寺本自治会 華の部（兵庫県伊丹市）
西宮市社会福祉協議会 地域共生館ふれぼの（兵庫県西宮市）	島根県立邇摩高等学校（島根県大田市）
名塩さくら台景観緑化クラブ（兵庫県西宮市）	みどりちかまる推進局（福岡県福岡市）
平岩まちづくり協議会（宮崎県日向市）	

個人部門	
金子 實（神奈川県川崎市）	佐野 誉志照・恵美子（静岡県浜松市）
寺尾 康男・桂子（兵庫県朝来市）	尾花 幸雄（兵庫県加西市）
諏訪 早苗（兵庫県姫路市）	三村 雅之（兵庫県姫路市）
末松 和佳子（兵庫県神戸市）	中谷 邦子（兵庫県豊岡市）
太田 よしの（兵庫県香美町）	門脇 きみ子（兵庫県多可町）

企業部門	
株式会社昭和観光（茨城県鉾田市）	コマツ茨城工場 茨城なでしこプロジェクト（茨城県ひたちなか市）
東京ステーションシティ運営協議会・株式会社鉄道会館（東京都千代田区）	ゲストハウス リッチモンド（静岡県焼津市）
医療法人凜和会 藤枝駿府病院（静岡県藤枝市）	医療法人財団 篠原医院（静岡県菊川市）
損害保険ジャパン日本興亜株式会社（愛知県名古屋市中）	

花のまちづくり努力賞

【若葉賞】	
団体部門	NPO あおもり〜な（青森県青森市）
団体部門	チーム カサブランカ・さくらハーバリウム会・福島大学うつくしまふくしま未来支援センター相双地域支援サテライト（福島県富岡町）
【年輪賞】	
団体部門	三田ヶ谷景観整備促進クラブ（埼玉県羽生市）
個人部門	苅尾 安正・希美子（兵庫県たつの市）

審査講評

コンクール審査委員長 輿水 肇

今年は全国から1,543件の応募がありました。応募くださった方にはお礼申し上げます。
また、受賞された皆さんには、栄えある受賞おめでとうございます。
心より祝福申し上げるとともに日々の花のまちづくり活動に敬服いたします。

イノベーションが花のまちづくりを発展させる

ここ数年、台風をはじめ豪雨などによる激甚災害が度重なり起こっています。台風15号と19号の猛威は記憶に新しいと思います。被害にあわれた方々にはお見舞い申し上げます。

花のまちづくりは野外での活動が主となるので、天候の影響を免れることはできませんが、強い風雨以外でも真夏の強烈な日差しと高温、都市部においては猛暑日が連続することで土が著しく乾燥し、これらが花壇の草花にとって厳しい状況を招きます。近年では都市部のみならず、緑豊かな田園の広がる地域でもこのような状況となり、花壇づくりを止めてしまうところすらあります。その一方で、きれいな花壇づくりを変わずに続けている所もあります。その違いはいったい何に起因するのでしょうか。

花のまちづくりでは、毎年同じような花壇づくりを

続けているだけでは、厳しくなりつつある環境変化を乗り越えられません。これを克服するには活動に関わる人が知恵を出し合い、様々な工夫をして花が育つ環境を整え、厳しい条件に耐え得る花の選択が必要で、これに加えて持続可能な組織運営が支えとなります。つまり、常に先を見据えて向上心と向学心をもとにしたイノベーションを図った活動が求められます。イノベーションなくしては、目まぐるしい環境変化や多様なニーズに対応できる活動はあり得ないのです。

このコンクールは活動面積や活動費、関わる人数の大小、花壇の出来栄のみを審査するものではありません。抱える課題や問題の解決に向けて花や緑を介して何をしたか、または、その成果をまちづくりにどう反映させたのかを重視して評価するコンクールなのです。

大賞受賞者に見るイノベーション

今回の大賞受賞者に目を向けてみると、どの受賞者もイノベーションを図った取り組みが目を引きまします。**特定非営利活動法人渋川広域ものづくり協議会**は花の活動を線から面へと広げ、年3回のお花見イベントを新たに起こし、異なる世代を活動に巻き込むことで世代間交流を活発にさせています。また、活動に絡めて地元の農産物で新しい食品を作り出すなど、花を介したもののづくりや関係づくりを地域に定着させ、創造的で多面的な活動をしています。**富士市花の会**は過去に優秀賞を2回受賞していますが、現状に満足せず花のまちづくりの先進地へ行って花壇づくりや組織運営などを研究し、それを会の活動にフィードバックさせ、自身の活動の改善を図っています。いくつもの課題を克服しながら、活動を形骸化させずに活性し50年間も継続させています。**アドプト・ロード・万博北**は手つかずになっていた道路に沿った緑地で、

草花栽培には過酷ともいえる場所でしたが、様々な工夫を凝らして花の生育環境を改善し、ローコストで大面積の花壇づくりと最大限の成果が発揮されています。善意と向上心に満ちた活動が、自己実現と環境美化という両面で昇華した取り組みといえます。**サンセトー宮花仲間**は海水や潮風をまともに被る場所での花壇づくりで、試行錯誤を何度も繰り返すことでこの環境に耐える植物を探し出し、地道でデリケートに植物と接し続けてきたことで、美しい景観に花を添えることができ、活動を広めることに成功しました。最後に**長岡市立桂小学校**は農村域の小規模校にもかかわらず、それを不利と感じさせることなく、地域と新たに連携することで花壇づくりの組織が拡大し、小学校が核になった地域活動にまで発展しています。間もなく60年となる活動は3世代を超し、花のまちづくりが地域のDNAとして定着しています。

花のまちづくり大賞 文部科学大臣賞が新設

今年から花のまちづくり大賞に文部科学大臣から賞をいただくことができました。この賞は幼稚園や学校での花のまちづくりが対象となります。教育機関での花のまちづくりは、コンクールの発足当初より重要なこととして捉え、審査項目では子どもの参加が位置づけられています。幼稚園や学校では若年期に人格の

形成と情操を育む花のまちづくりは、体験を通じて子どもたちに地域への郷土愛や愛着心が育まれるだけでなく、地域住民の参画と支援で、地域の一体化が醸成されます。文部科学大臣賞の新設は幼稚園や学校での活動のいっそうの励みになるのではないかと期待しています。

優秀事例発表



みんなで進める花のまちづくり ～いただきへのはじまり 富士市～

P.6

花のまちづくり大賞 農林水産大臣賞

団体部門 富士市花の会（静岡県富士市）



花と緑のまちづくり ～市の花“あじさい”が地域をつなぐ～

P.8

花のまちづくり大賞 農林水産大臣賞

団体部門 特定非営利活動法人渋川広域ものづくり協議会（群馬県渋川市）



地域を思うゆるやかな花のつながり

P.10

花のまちづくり大賞 国土交通大臣賞

団体部門 アドプト・ロード・万博北（大阪府茨木市）



花で癒され、やすらぎ、つながり、友づくり、まちづくり ～潮風を克服しての花壇づくり～

P.12

花のまちづくり大賞 国土交通大臣賞

団体部門 サンセトー宮花仲間（兵庫県淡路市）



お花が笑う みんなも笑う 優しい花の輪 つながった

P.14

花のまちづくり大賞 文部科学大臣賞

団体部門 長岡市立桂小学校（新潟県長岡市）

みんなで進める花のまちづくり ～ いただきへのはじまり 富士市 ～

富士市花の会（静岡県富士市） 会長 渡邊 香寿美

活動のきっかけと活動概要

私たちの富士市は、豊かな自然と富士山の恵みである豊富な湧水を利用した製紙業が盛んな工業のまちです。昭和40年代の高度経済成長期には、大気汚染や水質汚濁などの公害が発生し、危機感を感じた住民は、私たちのまちの美しさを取り戻すべく立ち上がりました。

1966（昭和41）年、二市一町の合併により新富士市が誕生し、それと歩を合わせるように、当時の生活環境の悪化を危惧し花を愛する750名が集まり、住んでいる地区の道路端や荒れた土地

に花壇を作ったことが活動のきっかけです。

富士市花の会は、2017（平成29）年に創立50周年を迎えました。日本一の富士山を仰ぎ、緑と花を通して心と心の触れ合いを第一に考えながら住民が幸せになるように、富士市ブランドメッセージ「いただきへのはじまり」として、市民一丸となって頑張っています。

主な活動は中央公園などの本部花壇をはじめ、市内に40ヶ所ほどある地域の花壇の手入れを一年を通じて行っています。

活動で努力している点

（1）原点にもどり種から育てる

富士市花の会では、本部花壇に植える花はすべて種から育てています。花屋や業者から花苗を購入するのではなく、自分たちの手で一から花壇づくりを実践しています。花壇づくりの原点に戻ること、花に対する愛着も一段と深まります。

毎月第一火曜日には役員会を開き、今後の予定や課題事項について協議し、毎週火曜日を作業日として、役員が中心となって本部花壇を整備しています。

（2）オリジナリティを生かした PR 活動

花の会の活動は、地域の人々との連携を大切にしています。花壇管理などの緑化活動は、花の会だけで行うのではなく、地域の人々の協力を得ながら行っています。また、小学校や幼稚園・保育園の子供たちと一緒に花壇づくりを行うことで、花を育てることの大切さを伝え、優しく思いやりのある心を持って成長するようお願いしながら活動しています。地域の花壇は、様々な世代の人々が集う交流の場となっています。

（3）市民活動としての花の会

富士市花の会は、富士市の緑化団体である「みどりいっぱい富士市民の会」の中でも、中心的な役割を担っています。年2回開催される緑化祭の「緑

と花の百科展」には、レストコーナーや講習会などの出展や運営にも積極的に協力しています。

年1回の総会では、参加者に種から育てた花苗を配布しています。

また、市民の会の事業として「花壇コンクール」がありますが、参加者として、また審査員としても主体的に関わり、市全体の緑化推進活動に貢献しています。

（4）行政や他団体との連携

会員の高齢化による会員数の減少は、大きな問題となっています。この状況を改善するため、市議会議員や前市長などを巻き込むことで、今まで以上の花のまちづくりを推進する体制作りを構築しています。

富士市みどりの課では、市内全域の公共花壇に予算 800 万円、15 万株の花苗を配布しています。花の会では、これらの苗を市と連携して花壇に植栽して育てています。



前回受賞時との違い

富士市花の会は発足当初から長年にわたり、市の発展とともに活発な活動を続けてきました。

2014（平成26）年に現在の会長に代わり、全国花のまちづくりコンクールに応募し、優秀賞を二度いただきました。

今回は、「いただきへのはじまり」の通り、「いただき＝花のまちづくり大賞」を目標に会員一同「できる」という想いをもって臨むことにしました。

まずは会員の意識改革をすることで、以前の花の会だけの活動から、視野を広げ、地域との連携を密にし、地域社会全体でよりよい環境を育てる活動に重点をおくようになりました。

また、過去に花のまちづくり大賞を受賞した南砺市や、バラの先進地である長野県中野市を視察し、富士市には何が足りないかを研究をしました。そして、今までの一年草を中心とした花壇づくりから、宿根草や周辺の緑をうまく活かしたものに転換しています。地域の歴史や風土に調和する植物やデザ

インを意識した花壇づくりを取り入れています。

さらに、花の会自ら講演会を主催し、花のまちづくりには何が必要か、多くのことを学びました。花のまちづくりを進めることは、地域社会の絆が強くなる、防犯上効果がある、人々の交流が盛んになるなど、様々な良い相乗効果が期待されます。地域との連携の意識を高めると同時に、花と緑を活かして潤いのある環境づくりの大切さを改めて認識し、今日では花と緑の調和のとれた素晴らしいまちづくりを目指して努力しています。



活動の成果

富士市は温暖な気候のため、一年を通じて豊かな緑や花が楽しめます。市域は東西に広いだけでなく、駿河湾から富士山へと標高差があることから、気温差が大きく花壇の手入れや花の維持が難しく、大変苦勞しています。

しかし、会員は花が大好きなので、暑い日も寒い日も、花いっぱいに住み良いまちづくりに

貢献するため、一丸となって頑張っています。

2004（平成16）年から障害者就労支援施設鷹身工芸社との協働作業で富士西公園花壇の植付けは15年目を迎えました。市内の公園や、主要道路沿いにある本部花壇や、各地区にある地域花壇は40ヶ所にものぼり、地域の住民だけではなく、本市を訪れる人々の目も楽しませています。

今後の展開

私たち富士市花の会は、50 年以上と長年にわたって活動しておりますが、現状に満足せず、足りないものを研究し、常に新しいことを取り入れながら問題を改善し、これからも前進していきます。今回の全国花のまちづくりコンクールでの花のまちづくり大賞の受賞を契機に、真の「いただき」に向かってさらに努力していきたいと思います。

そのためには地域との連携をより大切にし、日常の花壇管理を通した、花と緑の溢れた潤いのあるまちづくりを目指して、他市とも交流を行いな



花と緑のまちづくり ～ 市の花“あじさい”が地域をつなぐ ～

特定非営利活動法人渋川広域ものづくり協議会 会長 岸 邦夫

活動のきっかけと活動概要

1998(平成10)年に協議会の設立の準備を開始し1999(平成11)年に会を設立、2000(平成12)年に法人化しました。

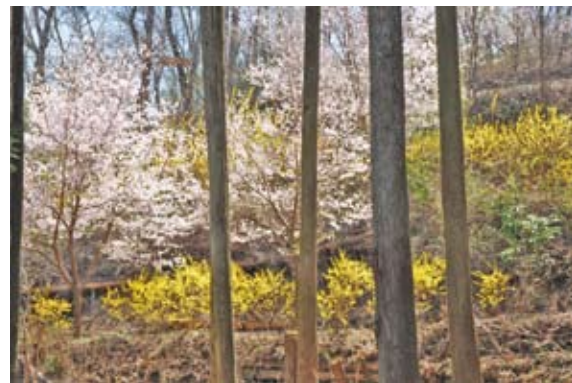
2003(平成15)年に国土交通省関東地方整備局利根川河川国道事務所と渋川市、当会の3者で「ボランティアサポートプログラム」を締結しました。関越自動車道渋川伊香保インターチェンジ付近の国道17号線中央分離帯の環境美化のため、渋川市の花があじさいであることから、白い西洋あじさいアナベルをここに植栽し管理を始めました。その結果、雑草だらけのゴミ捨て場のような状態だった所が、白い雲のじゅうたんを敷いたような花畑に変わり、ポイ捨てが激減しました。



2008(平成20)年にインターチェンジから北に約1.5km離れた東町地区の国道17号線中央分離帯でもアナベルを植栽し管理を開始しました。現在、インターチェンジ付近と東町地区とでアナベル街道となりました。当初は会員一同でアナベルを育てて花を楽しんでいましたが、作業中、通行者に質問を受けることが増えたことから、花をたくさんの人に楽しんでもらうために、会の設立10周年事業として2009(平成21)年からフラワーガイドを開始しました。

小野池あじさい公園では「あじさいまつり」の期間中約3万人の観光客が訪れています。四季を通して花を楽しんでもらえるように隣接の里山を借り受けて、2009(平成21)年に公募した130人のボランティアが参加して、100本の桜の苗木

を植栽しました。その後、下草の刈払い作業や散策道の整備、アナベルやスイセン、レンギョウ、ロウバイ、サルスベリ、あじさいなどの植樹、管理を行っています。2014(平成26)年に「セーブオン桜プロジェクト」で10本の桜の木を頂戴し、小野池里山に植栽しました。2015(平成27)年に桜が咲き始めたことから、「小野池桜まつり」を開催し、地域の皆様と花見を楽しんでいます。



「小野池秋まつり」は2011(平成23)年から開催しています。小野池里山で春と秋、年に2回のイベントを開催し、散策、植樹体験、ゴーコン料理*で交流会を行っています。

2016(平成28)年からはJR渋川駅前広場の花のプランターの手入れを開始しました。JR渋川駅、地元自治会や商店街、地域のグループの協力を得ています。同年、ぐんま花の駅ネットワーク推進協議会に加盟し、当会としては「JR渋川駅前広場」と「小野池あじさい公園」2つの花の駅を登録しています。この2つの花の駅を結ぶ平沢川緑道にも同年、地元3自治会の方々に協力をいただき、あじさいを植栽しました。

2019(平成31)年に設立20周年事業として、第1回と第2回の「駅からまち歩き in 渋川」でJR渋川駅前広場から平沢川緑道を通り小野池あじさい公園までを歩くイベントを開催しました。花を見ながら歩く健康づくりの活動です。小野池里山の市民花壇にイベントの度に参加者にアナベルの植栽体験をしてもらい、再来を促しています。

2009(平成21)年から花の種まき教室を開催

し、現在は年間12回実施、うち1回は一般対象で11回は幼稚園や保育園で行っています。一般の方や園児が種まきして育苗した花苗が地域を飾り、花を介した交流につながっています。

2009(平成21)年からグリーンカーテン普及活動を実施しています。ゴーヤ苗の無料配布、イベント「グリーンカーテンを育てよう」の開催、グリーンカーテン写真展人気投票、同写真展、ゴーコン料理教室などで緑のまちづくりを行っています。



活動で努力している点、前回受賞時との違い

渋川市の2ヶ所の玄関口である渋川伊香保インターチェンジ付近とJR渋川駅前を花でお出迎えています。また、イベント開催やガイド活動を行うことで、より多くの方が花のまちづくりに関わってもらえるようにしています。

前回、2015(平成27)年に優秀賞を頂戴しました。受賞して以来、活動場所を増やすとともに、花を活用して健康づくりや街中のにぎわい創出につながるようなイベントを開催しています。渋川市をはじめ群馬県に多くの方が花を見に訪れてもらいたいと思い、ぐんま花の駅ネットワーク推進協議会のスタンプラリーに参加しています。

幼稚園・保育園での花の種まき教室や小学校でのグリーンカーテン作成指導や調理実習など、子供たちへの花育による情操教育と世代間交流を行い、花のまちづくりが次世代につながるように努めています。



活動の成果と今後の課題

小野池里山は活動当初荒れていましたが、作業によりきれいになってきており、緑の中で季節の花を見ながらの健康増進や散策に訪れる人が増えてきました。また、会員同士の連帯感やイベント参加者の間で世代を超えた交流がうまれてきています。会の活動に対して地元企業や自治会のご理解とご協力をいただけるようになり、市の花あじさいが駅や公園、国道などに植えられたことで、渋川市のイメージアップにもつながっています。

活動20周年に頂戴したこの賞を会員一同で励みとし、今後も花のまちづくりを進めてまいります。



*ゴーコン料理 … グリーンカーテンで収穫したゴーヤと渋川市が収穫量日本トップクラスのこんにゃくを使った料理のこと。ゴーコン汁は商標登録済。

地域を思うゆるやかな花のつながり

アドプト・ロード・万博北 代表 坂東 淳子

活動のきっかけ

1970(昭和45)年の大阪万博の跡地は大阪府北部、吹田市の東端で茨木市に隣接しています。現在は記念公園として美しく整備され、イベントが多く開催されるので、記念公園を一方通行で囲む全長約5kmの万博外周道路(以下、外周道路)やそこに出入りする道路は信号待ちやゼブラゾーンに駐車する車から排出される塵が多く、見るに見かねていました。

一方、街路樹や万博日本庭園、外周道路北側にある大阪大学の本々の落葉が、施設の外側に沿った溝に溢れ、歩道や外周道路に並走する自転車道にも溜まっていました。また、記念公園周辺は丘陵の開発地で草木が多く、特にクズは道路法面や分離帯からつるが這い出て、歩道や自転車道を狭めている事態でした。

そこで、除草清掃活動が対象の大阪府のアドプト・ロードの認定を受け、外周道路北側半分の2km余りと北へ続く府道1号線の1km程の全長3.1kmを協定区間とした「アドプト・ロード・万博北」が発足しました。

活動概要

発足後3年程は第1日曜日に外周道路清掃の定例会を行っていましたが、日時の拘束、高齢化等で徐々に参加者が減り辞めました。一方、殆ど毎日、地域の除草清掃や花畑の手入れをするメンバーもいました。また、茨木市が花を植える活動を支援する年4回の花の配布制度に申し込み、2006(平成18)年5月21日から110株を全員で病院前花畑と駐輪場南花畑へ植えました。

病院前花畑は徐々に花壇もメンバーも増え、現在は60区画になり11名で担当場所を決めて、出来る時に来て好きな様に作業をしています。

現在、茨木市配布の花は50株に減り10名で分けて植え、種から育てた苗、代々の担当者が残した花、挿し芽、株分け、落種苗、購入した苗、近隣住民から不要な苗をいただくなど、種類が豊

2005(平成17)年9月4日の認定証交付式には15名が参加しました。参加者の内訳は、阪大病院前の不法投棄が絶えなかった緑地帯や府道法面(以下、病院前花畑・駐輪場南花畑・みのり橋北詰斜面)に花を植えていた近隣住民3名、外周道路東側の千里リサイクルプラザ(以下、プラザ)正門前のゼブラゾーンに駐車する車が出す塵対策で大阪府にガードレールを設置していただいたプラザ市民研究員4名、茨木市こどもエコクラブ4名、地域住民4名です。



富で統一感が無い様ですがメンバー1人1人の綺麗にしようという思いで調和のある花畑になっています。

水はモノレール阪大病院前駅下の水栓からいただき、近所の工務店から提供された浴槽に入れています。

この様な流れの中で、メンバーそれぞれに掛かる費用は個人持ち、会議は花畑で会った時の立ち話程度、会則は大阪府作成の協定書や実施マニュアルがあるので設けず、会費、会議、会則、定例会が無い活動となりました。行政任せでなく自主的に地域を綺麗にしようという思いの花を介したゆるやかなつながりが、楽に長く活動が続いている秘訣と言えます。

一方で2005(平成17)年から3年間、大阪府の

菜の花プロジェクト参加をきっかけに、次々と整備した交通島や花畑、2007(平成19)年3月開業のモノレール下で傷むクチナシ樹、阪大病院前駅から豊川駅までのモノレール下で塵が多い分離帯の草に負けたマツバギク58株は、広大で敬遠され担当者が増えず、今年85歳の開墾者が1人で12年間整備し続ける2か所の数百mの分離帯を含め、7名程で担当しています。

人手不足で除草や手入れが間に合わない時もあります、四季折々の花が咲きます。

移植時のみ公園等でペットボトルに汲む水を使い、それ以外の灌水は雨水のみですが、落葉や

除草した株を土づくりに利用しているので花は元気です。



活動で努力している点

- ・手間が掛からず花期の長い花を選びます。
- ・雨の前後に花を植え水道の使用を減らしています。
- ・ホームページをほぼ毎日更新して広報に努めています。

活動の成果

- ・ポイ捨てや不法投棄の塵が減りました。
- ・落葉や除草ガラクを土に戻しています。
- ・道路の見通しが良くなりました。
- ・「万博外周は市民が手入れする通年花いっぱい」のランニングお薦めコース」「花が多いからここに住んだの」「花で生きる力が湧きました」等の言葉をいただきます。
- ・写真を撮る方、絵を描く方が訪れます。
- ・病院や老人施設の方に喜ばれています。
- ・花が通行人との会話や笑顔を増やします。
- ・あげますコーナーの花が役立ちました。
- ・メンバーの健康維持に役立っています。
- ・メンバーのホスピスの役割をしました。
- ・蝶や虫が増えました。
- ・2008年菜種60kgを収穫しました。
- ・花で付近の犬の糞の放置を無くしました。
- ・ヌスビトハギの種が衣服に着く歩道脇の花に代えました。
- ・歩道脇垂直壁の嵩張るヘデラから根元を括った薄いツルニチニチソウに代え歩き易くしました。
- ・菜の花が理科の教材になりました。



今後の展開

地域の方々に喜ばれていますので、無理せず笑顔で続け、自然の成り行きも受入れ、更に綺麗にしようと思います。

花で癒され、やすらぎ、つながり、友づくり、まちづくり ～ 潮風を克服しての花壇づくり ～

サンセットー宮花仲間 代表 高田 美千代

活動のきっかけと活動概要

ヨーロッパ旅行で目にしたイングリッシュガーデンに魅せられ、2003(平成15)年淡路景観園芸学校の「まちづくりガーデナーコース」を受講したことが大きなきっかけとなり、花と緑で淡路の景観を美しくしよう!と仲間とともに、2004(平成16)年から沿道の空き地で花壇づくりを始め、花のまちづくりの第一歩を踏み出しました。2006(平成18)年からは淡路オープンガーデンに参加し、淡路島の緑化活動を盛り上げています。

“楽しみながらみんなでまちをきれいにしよう”を合言葉に、夕日の美しいまちのシンボル「サンセットライン」(海岸沿いの県道西浦線)の景観性の向上などを目指して花壇づくりをしています。

2012(平成24)年に県道拡幅にともない新しい沿道花壇(サンセット花壇)の植栽管理を引き受け、2016(平成28)年秋からまた新たに以前より気がかりだった地元西浦線の荒れ果てた沿

道公園(郡家公園・室津公園)の緑地再整備に取り組みしました。また、不法投棄防止も兼ねてゴミステーション付近にプランターを設置するなど、地域に密着した緑化活動を心がけています。現在、会員数20名、活動歴15年、管理花壇面積は4ヶ所で合計約440㎡になります。



活動で努力している点

(1) 花壇づくりの留意点

周囲との調和がとれ、四季を感じられる花壇づくりを基本に、ナチュラルでよりきれいな花壇づくりを目指しています。無理なく継続的に維持管理ができるよう、地域の気候風土に合った植栽計画を立て、地元の特産である淡路瓦や自生植物も取り入れ地域の独自性を加味しながらデザインにもこだわり“キレイ”を追及しています。多年草・宿根草類をベースにローメンテナンスで持続可能な設計、全体のバランスを考えながら1年草をプラスし、沿道を明るく飾れるよう、さわやかでカラフルな配色にして、一年中花が絶えないようにも配慮しています。

メンバーの方々にはできる限り負担のかからないよう、雑草対策や夏の灌水労力軽減のため有機マルチの施用など対策を講じて、花壇は海岸に近いので潮風に強い植物を選択して植栽しています。



(2) 前回応募時との違い

前回応募(入選)後の2016(平成28)年秋から、管理が行き届かず雑草が生い茂り、ゴミが散乱状態で景観を大きく損ねていた県施設“緑の道しるべ”「郡家(ぐんげ)公園」「室津公園」を私たちが何とかきれいにしよう!と立ち上がりました。

アドプト事業からの助成(資材・植物)を活用して、花壇の整備・植栽計画・雑草抜き・土壌改良・整地・植え付けとメンバー総動員で行政など様々な方面からの協力も仰ぎながら半年をかけて行いました。

苦労している点は、特にこの場所は海岸沿いなので、潮風や荒天時には直接海水にさらされる厳しい環境条件の下で耐え、健全に育ってくれる植物の選択には、試行錯誤を繰り返しながら3年を要し現在の花壇の姿があります。

最近では、花壇面積が増えるにともない維持管理の手間もおおのずと増えたので、地域の人にご理解ご協力をお願いし、5名の新しいメンバーが加入してくださいました。



活動の成果と波及効果・今後の展開

一年一年の積み重ねが自然とレベルアップに繋がっていったのか、花壇をバックに記念写真を撮る方やオープンガーデンにリピーターで来てくださる方も定着し、多くの花友ができました。喜びとともに花が結んでくれた縁に感謝しています。

また、沿道花壇を含めタイヤプランターを設置した付近では、不法投棄が減り以前よりきれいに利用してもらえるようになったのはとても嬉しいことです。特に、新たに再生に着手した緑の道しるべ「郡家公園」では、車を止めて花や景色を眺める人たちが急増し、“すごいキレイになったネ”と大勢の方から賞賛の声をいただきました。

また、キレイは伝播するのか?隣接地域の放置花壇やプランターが、他団体によって緑化再生へと広がりを見せています。

花のまちづくりの輪が広がり地域活性化の一助になればと願いながら、今後はさらに技術の向上を図り、花の少ない時期にも見栄えする植物を配するなど、今までの活動以上にきれいな花壇づくり、維持管理に努めたいと思います。



お花が笑う みんなも笑う 優しい花の輪 つながった

長岡市立桂小学校 校長 今成 満

活動のきっかけと活動概要

児童の情操教育を高めようとスタートした桂小学校の花栽培活動は、今年が59年目、来年度に60年目を迎えます。「花を育て 花に学ぶ」を合言葉に、本気で学校を応援する方々に支えられ、学校地域が一体となった息の長い活動を続けています。祖父母から児童三世代にわたる取り組みのため、「自分たちも子どもの頃に花を育てた」経験や愛着が活動をより豊かにしています。校区の古墳遺跡にちなんだ「まがたま花壇」は、児童会の花委員会でテーマを決め、異なる年齢の「なかよし班」毎にデザインした花栽培活動を行います。令和元年度のテーマは「優しさの輪」。花を通して地域とつながり、学校やふるさとへの温かい思いを広げようという児童の気持ちが活動のベースとなりました。

一方で、少子化により児童数は現在39名です。活動には、「花の会」を中心にした地域ボランティアの協力が大きく関わっています。ほぼ毎週ある「ありんこ活動」は、児童・地域が協働で花の世



話をする場です。「花の会」と教職員が担当する花壇と合わせ、全体で一つの花の景観を創り出します。それらを生かした保育園や福祉施設との交流も大切な教育活動です。

活動で努力している点

『くりかえし くりかえし 水やり 草とり

花がらつみ 花の言葉きこえてくるよ』

花栽培活動は、命の尊さ、命への慈しみの心を育てる大切な場です。花を大きく育て、そして長く美しく咲かせるために、季節に応じた世話の積み重ねが欠かせません。全校児童は登校すると真っ先に花壇に向かい、毎朝10分間の世話をなかよし班で行います。

『くりかえし くりかえし 芽が出て 花咲き

種のかす 新しい命つながります』

種から花を育てる体験は、雪国にある当校にとって大切な活動です。秋に種を播き、雪に覆われる期間は気温に注意して育てます。そして、卒業式と入学式を飾ったビオラが、春の玄関を彩ります。盛り上がった豊かな花の量に来校者



『やさしい花の輪 つながれば

こんなにあったかい気持ちになれるなんて』

地域の福祉施設との交流を年に2回実施しています。入学してから6年間、合計12回の訪問です。施設の花壇の草取りと自分たちで育てた花の苗をプレゼントします。夏休みが終わった初秋、施設に入所している方が花壇の観賞会に来校すると、顔見知りになった児童は喜んで花壇を案内し、グリーティングカードをプレゼントします。自分たちの気持ちが伝わったうれしさを味わうことができます。

また、新1年生として入学してくる保育園の年長児に、入学を楽しみにしてくれることを期待して、ジニアの苗を毎年プレゼントします。園児が小学校に体験入学に来た際にはお礼を言うので、児童は自己有用感を高めることができます。

『人の和』をもっと広げたい…新しい取り組み

現在、伝統の花栽培活動の課題として、ボラン

ティア団体「花の会」メンバーの高齢化に伴う減少と教職員の研修や地域指導者の育成があります。今年度、新たに住民がオープン参加できる「花づくり大学」を開講しました。地域の花活動の育ての親である方を指導者として迎え、年に4回、花の世話や増やし方に関する智恵や技を学びます。受講者の希望も取り入れながらメニューを組み、地域の花づくりが一層盛んになることを目指しています。



活動の成果

花栽培活動 60 周年に向け、児童が日常の思いや願いを歌にして発信する計画を立てました。児童一人一人の取材をなかよし班毎の話し合い活動にいかし、高学年がメンバーの詩を紡ぎながらまとめていきました。実は、この原稿の『』の言葉は、全て完成した歌詞からの引用です。入学して6年間積み上げてきた花栽培活動が、どんなにか児童の感性や情操を高めたか、教職員も驚いています。



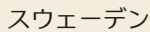
今後の展開

花栽培活動は、児童の情操教育、キャリア教育に大変役立ちます。一方で、児童の減少に伴う教職員の減少やボランティアの減少は、すなわち花を育てる労力の減少です。また、気候変動も世話を大変にしている現状があります。花づくり大学等による理解支援者を広げる取り組みとともに、持続可能な活動への転換が必要になっています。栽培する花の品種の工夫、スプリンクラー

等の施設の充実による作業の軽減化が考えられます。

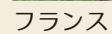
また、保護者の積極的な参画もお願いし、心癒される花栽培の良さを子どもとともに体験してもらいながら、一層、地域ぐるみの活動として広げる取り組みを進めています。さらに、学校施設の安全管理を踏まえながら、市民に愛されるオープンガーデン化も模索する予定です。

- ・イギリス
- ・フランス
- ・スウェーデン



- ・ジャーマンアイリス
- ・エキナセア
- ・スティパ（ポニーテール）
- ・ユリ
- ・ルドベキア
- ・ニチニチソウ（ミニナツ、トコナツ）
- ・トレニア（ブルーリバー）

恵泉女学園 園芸生活学科卒業。ベルギー カルムタウ
ト樹木園 及び 英国王立園芸協会 ウィズレーガーデン
にて研修。東京ランドスケープ研究所を経て、1990年
に有限会社 ホリーホックガーデンを設立。恵泉女学園
園芸短期大学 非常勤講師を務める。「'90国際花と緑
の博覧会」において優秀賞・金賞を受賞。「NHK 趣
味の園芸フェスティバル」(銀座松屋)のメインディス
プレイを長年にわたり担当、「NHK趣味の園芸」の講師
も務めた。その他、公共施設、個人庭園、並びにイ
ベントのディスプレイ花壇のデザイン・制作および講演
活動、日比谷公園ガーデニングショー審査員、全国花
のまちづくりコンクール審査委員、園芸文化協会 常務
理事、チューリップ文化振興協会 理事など。



● チューリップを極めましょう

第26回 全国花のまちづくり浜松大会 開催案内

- 日 程：2020年 5月23日（土）・24日（日）
●会 場：アクトシティ浜松

お申し込み先・お問い合わせ先

7430-0923

静岡県浜松市中区北寺島町 617-6 南土木整備事務所 1 階

浜松市 都市整備部緑政課

TEL 053-457-2565 FAX 053-457-2164

MEMO

[illegible]